

大学名

広島大学(Town & Gown Office準備室)

第61号テーマ
「レジリエント社会の構築に向けて」

表題

タウン(街)とガウン(大学)が一体となって実現するやさしい未来都市

特色ある取組

広島大学と東広島市は、2020年4月にタウン・アンド・ガウンオフィス(TGO)準備室を共同で大学内に設置した。大学と立地都市がビジョンを共有しながら、組織的・日常的・包括的な連携のもとで持続可能なまちづくりを共同で目指すユニークなセクションである。

2021年1月、住友商事株式会社と包括連携協定を締結し、スマートシティ構想をスタート。同年7月にはソフトバンク株式会社、株式会社フジタとも協定を締結するなど、本学を中心にイノベーションを創出する環境ができつつある。2030年を目標として「カーボンニュートラル×スマートキャンパス5.0 宣言」を行い、具体的なロードマップを打ち出している。

成果・評価

レジリエンスの観点でも、広島大学と東広島市との強い結びつきは、大きな成果を挙げている。その一つの例として、今回のコロナ禍における留学生への経済支援とワクチン職域接種の早期実現を紹介したい。

本学には1,600人を超える海外留学生が在籍している。一時帰国して日本に再入国する際に求められる14日間のホテル待機費用が負担となって、学業継続への支障が懸念された。これに対し市が留学生のための新たな補助金を設けて支援し、224人が円滑な渡日を実現。また、市との協働により、国立大学で最も早くワクチンの職域接種を開始し、地域の中小企業や小中学校教職員への早期接種に一役買った。(2021年7月16日現在 1回目接種完了者約20,200人のうち、市内企業及び小中学校教職員等7,100人)

教育、研究、地域貢献の三本柱は国立大学の使命。地域と大学がタッグを組み、レジリエントでやさしい地域社会を構築する試みは、これからの大学のモデルとしても期待される。



広島大学長 越智光夫(右)と、東広島市長 高垣廣徳(左)



TGOと住友商事(株)共催のスマートキャンパスワークショップ。キャンパスの最大ユーザーである学生の視点やアイデアが飛び出した。



大学体育館で行われたワクチンの職域接種

参考URL <https://tgo.hiroshima-u.ac.jp>